

歴博 暮らしの植物苑だより

第94回『暮らしの植物苑観察会』11月25日(土) 13:30~ 暮らしの植物苑

「針葉樹のはなし」 斎木健一 (千葉県立中央博物館)

第11回『日本の植物文化を語る』12月26日(土) 13:30~15:30 本館講堂

「花木文化の粹—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀 (恵泉女学園大学)

伝統の古典菊

江戸菊が狂い咲きをはじめてきました。



江戸菊 春日1



春日2



春日3



江戸菊 新秋の紅1



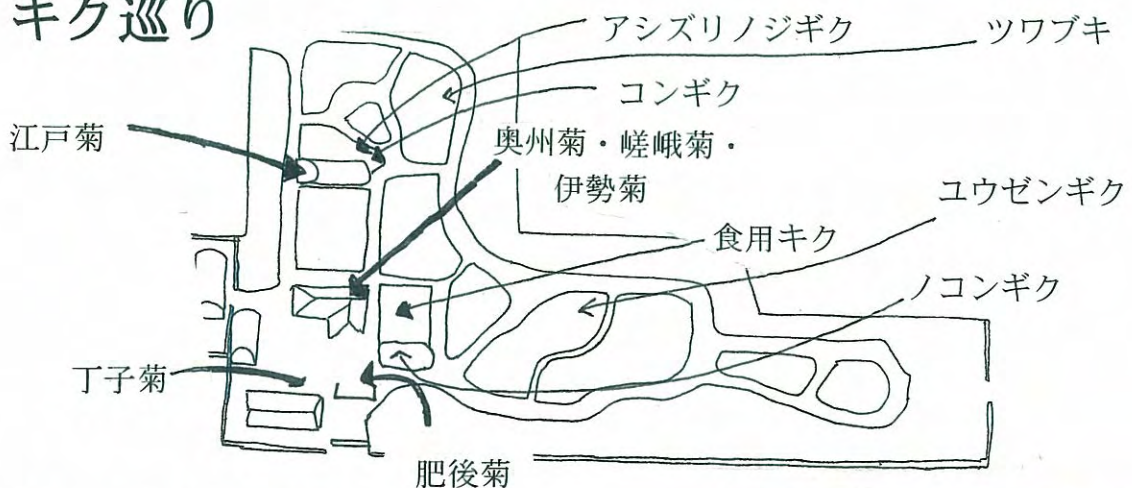
新秋の紅2



新秋の紅3

江戸菊は狂い咲きが楽しみです。同じ品種の菊なのに日がたつに従い、どんどんと変化していきます。1つの花を決めて変化を見ていくのは楽しいことです。

キク巡り



①ラッキョウ (ユリ科ネギ属)

中国原産の多年草で、冬には枯れず夏に葉が枯れて休眠します。株全体に独特の臭気があります。葉は断面が五角形、紫色の花をつけますが種子はできません。鱗茎が肥大し食用になります。



②サフラン (アヤメ科サフラン属)

観賞用に広く栽培され、花は花被片が6枚、おしべは3本で葯は大きく黄色。花柱は3本に分かれ鮮やかな橙色です。花柱を集めて乾かしたものをサフロンといい、鎮痛薬として、また料理の香料・染色に利用しました。



③ヒサカキ (ツバキ科ヒサカキ属)

暖地に普通にはえる常緑低木で、雌雄異株。黒く熟した液果の中に種子が多数ふくまれます。枝葉はサカキの代用として神前や墓に供えられています。



④ヒイラギ (モクセイ科モクセイ属)

葉にするどい鋸歯があり、葉は十字対生の常緑小低木です。雄花と両性花が別株に着き、芳香があります。材は緻密で楽器、将棋の駒、そろばん玉などに用いられます。節分にイワシの頭をつけて戸口にさして魔除けにする風習があります。



⑤アシズリノジギク (キク科キク属)

ノジギクの変種で、足摺岬から佐多岬にかけての海岸に分布します。葉はノジギクよりも切れ込みが大まかで、小さい。葉の縁が白い毛で縁どられているのが特徴です。



⑥ユリノキ (モクレン科ユリノキ属)

独特の葉を持つ落葉高木で、いまは高い所に肉眼でも果実を見ることができます。



⑦バショウ (バショウ科バショウ属)

今年の5月に咲いたバショウがまた咲きました。バショウはバショウ属のなかで、耐寒性があり野外でも植栽できます。狂い咲きをしています。

